



太田進一
(朋の会)

広汎性発達障害 (PDD) ・ 成年後見制度について

本市の対応について

問 発達障がいへの対応については、

答 早期に見出し、支援を行うことが重要であると考えています。

具体的には、乳幼児健康診断などで早期の見出しに努め、個別相談や集団の教室を紹介し、経過的な観察を実施しています。その経過の中で、特に発達の状況が気になる乳幼児については、医師や作業療法士などの専門職による第二次健診を案内して、対応を図っています。また、ことばと発達相談室で、未就学児の言語通級の教室を実施しています。

問 専門知識を持つ相談員については、

答 障害福祉関係では、本庁に二人、支所一人の保健師資格を有する職員を配置し、相談業務などを実施しています。市民が最初に相談に来る窓口ですので、発達障がい者を含め、全ての障



特別支援学級の運動会

がいに幅広く対応していききたいと考えています。今後につきましては、社会状況の変化による適正な支援体制を確保するために、障がい種別ごとに専門性を有する職員の配置も検討していく必要があると考えています。

その他、成年後見制度について、

改正行政不服審査法について、二項目質問しました。

子ども議会

安中市議会では、より開かれた議会とするため、近年、本会議の映像配信や議員ごとの賛否の公表を開始するなどの議会改革を続けています。

現在も、議会改革特別委員会を設置し、議会基本条例や政治倫理条例の策定に向けて調査研究を進める等の取り組みを行っています。また、安中市議会として、初めての子ども議会を、八月七日(日)に開催することにしました。

今回の子ども議会は、市内の各中学校から選出された中学三年生二十二人が子ども議員となっており、本会議場で市長等に一人一人直接質問をし、答弁を受けるというものです。

六月六日に打合せ会を行い、各学校代表の二十二名を議長が子ども議員に選任した後、議会の概要説明や議場見学などを通して、議会への理解を深めてもらいました。また、三グループに分けて、子

ども議長や発言順序などを決めてもらうとともに、質問する項目を考えてもらいました。

特筆すべき事項は、子ども議長に五名も立候補し、全グループで立候補により決定したことです。このような生徒たちの積極的な姿勢や、議員の説明を真摯に聴く様子を見て、未来への希望を感じました。

今回の子ども議会を通して、多くの市民が市議会を身近に感じていただけることを願っています。



本会議場で説明を受ける子ども議員

